

上
一
卷
考
說
篇

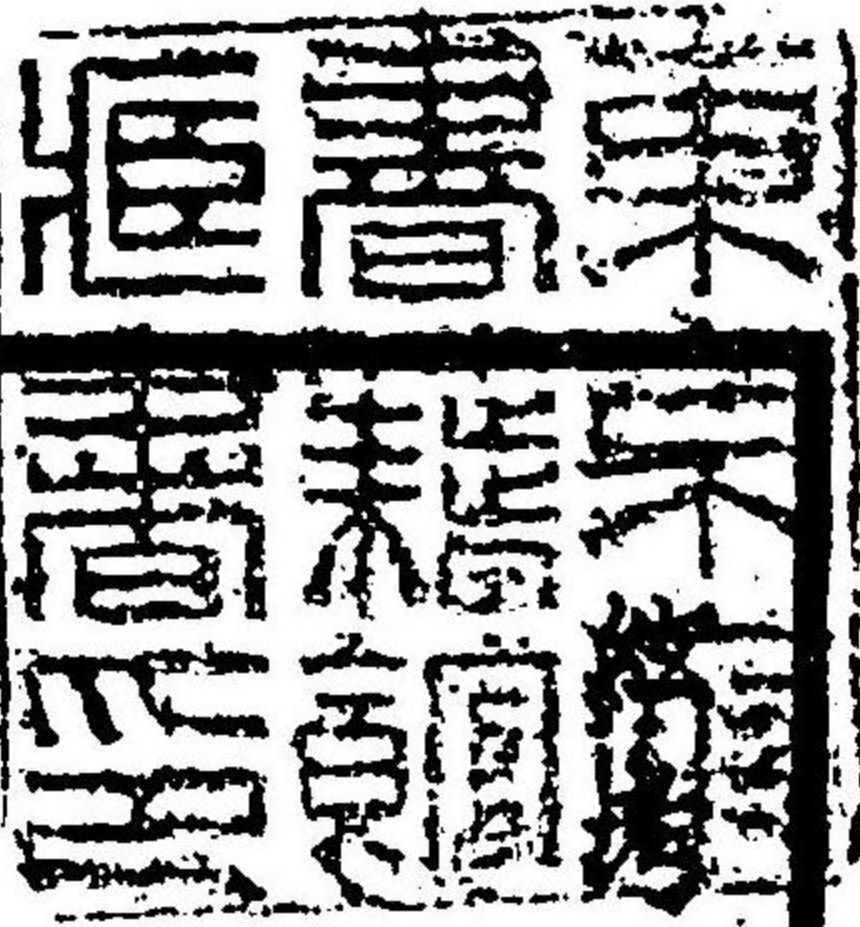


自序

古キヲ慕フト、新キヲ羨ムトハ、表裏ノ如クナレ
ド、古キハ古キニ依リテ取ル所アリ、新キハ新キ
ニ就キテ、見ル處アリ。言ヒモテ行ケバ同シ理ニ
モナリ又可カラムカシ。譬、バ甕器製ルニ、白キ石
ノ細末ヲ練リ、旋盤ニ載セテ象ヲ作り上藥画藥
ヲ塗り火氣ニアツレバ光澤玉ノ如ク文彩錦綾
ヲ欺ク又土ヲ溶テ掌ニ團メ押平ノ指頭ニテ意
ノ隨ニ物ノ形貌ヲ造リ出スハ或ハ傾キ或ハ歪
ミナド正シキ調度トモアラヌサマナレド其ツ

クロハガルの所ニ趣有リテ木芽煮ル人ナドハ中々ニ規車ノ巧ミヲ侮ルベシ今此一絃一節ノ糸竹モ釋子ノ玩物ノキタレト樸素真ヲ具テ二十五十三ノ絃九穴七孔ノ管ニモ劣ルヘカラザルハ彼磁器ト填瓮トノ得失ヲ出ベカラズ且音韻ハ兩閩風氣ノ為ス所其器械ハ暫自然ヲ預ルナリ天地自然ノ音韻人ノ心ヲ感セシメ神祇ヲ慰メ奉ル神樂コソナマメカシクモオモシロケレト昔人ノ言ヒケムハ實ニ然ル事ナリカシ

井上淑蔭識



二編

權大講義井上淑蔭著

許登ハ上古神代ヨリ傳ヘタル一種ノ絃器ニテ其起原定カニ記シタル物モ見エズ本居氏ノ記傳十五丁卷五ニ「上代ニハ夫婦ノ結ビヲスルニ必女ノ親ノ方ヨリ。聶ニ琴ヲ與ヘテ其ヲ永ク夫婦ノ中ノ契トセシニシアリケム其サダカナル扱ハ未見アタラネド吾妻トイフ名ノ有モ此故ナルベクオボユ後マデモ和琴ニ此名アリ此ヲ中頃東國ヨリ奉リシコト有リシ故

ナド云説ハ名ニ付テ云云河海抄ニ和琴ハ伊弉
設タル空言ゾカシ出給云云ト云マタ出雲風土記古老傳云云故
云琴引山ナド見エタレバ最々古キ事ナルベシ。
サテ此器ヲ嫁娶ノ禮契トスルハ直ニ其音ヲ賞
ルノミニハアラデ音韻ノ調和ヲ夫婦相親ムニ
依セタル祝事ナルベキナリ只ニ後世ノ聲引出
トニ夫婦和睦シテ此器ハ異域ニテモ妻子
ヲ弄ブ料ナル可キナリ夫婦ハ異域ニテモ妻子
好合如鼓瑟琴ト云リ其暗合思フベシ實ニ此絃
音ノ宜シキ如クナラムハ夫婦ノ和合至レルモ
ノナリ王吉ガ上疏ニ夫婦人倫大綱ト云リ顔子

家訓ニ婦主中饋唯事酒食衣服之禮耳ト有ルハ
婢女ニ似タルサマナレド是ハ倫理ニカライレズ
牝鷄ノ晨鳴ヲ誠メテ云ルナレハ聊公論ニ違ヘ
ル趣アルガ如シ其心シテ見ルベシサテ夫妻ノ
上ノミナラズ万般調和ヲ賞スルハ古今一徹ノ
理ニテ政道世態ノ正シキヲ琴ノ調ニ譬タルハ
古事記清寧天皇衣衾命御詠言ニ如調八絃琴所賜
天下云云トアルニテ明カナリ八絃ノ琴ハ本夫
婦ノ中調ヒテ産兒ツギク蕃息スルハ甚キ家ノ
吉事ニテ父母ノ喜悅何バカリナラム諾丹二神

ノ御功蹟ハ申モ畏シ。人ノ上ニモ古今枚擧スベ
カラス。猶漢籍ニ「有夫婦而後有父子。有父子而後
有兄弟。一家之親。此三者而已矣。自茲以往至九族
皆本於三親焉。故於人倫爲重者也。不可不篤云云。
トアリサテ又親ノ貴キ由ハ。孝經ニ「天地之性人
爲貴。人之行莫大於孝。マタ同書ニ「夫孝德之本也。
教之所由生。マタ後漢書ニ「孝百行之本。衆善之始
也。ナド然バカリ大ナル孝道モ。根ザス所ハ夫婦
ノ和ナリ。其和ヲ調フル名器ナレバ。神祇ノ感賞
サコソト推量リ奉ル。神樂ニ用ルモ專。此旨趣ニ

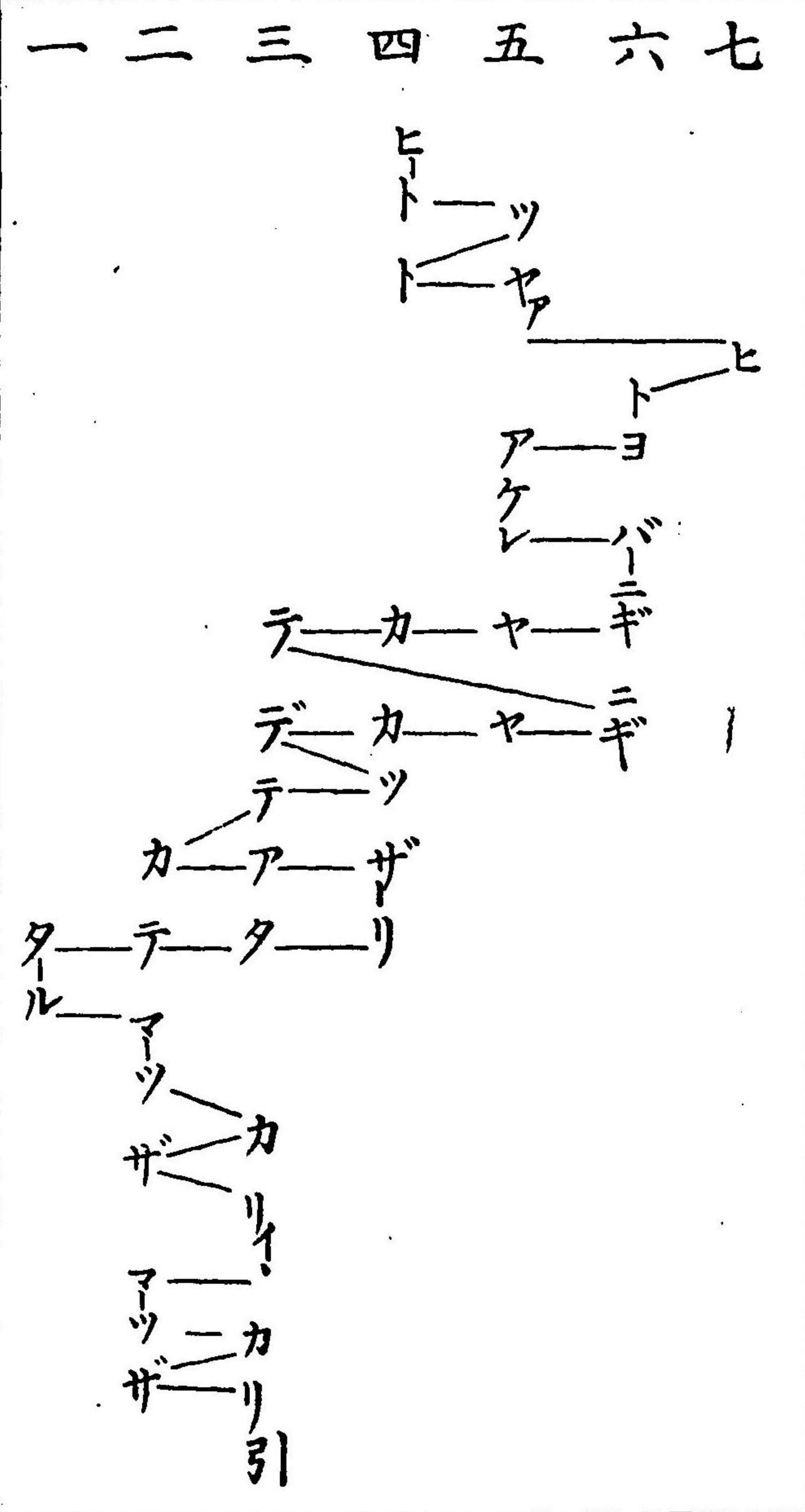
テ。其曲調ヲ等閑ナラザルヤウニ奏スベキナリ。
人心ニ適セザルバカリナラムハ。神慮モイカデ
慰ミ給フベキ。サテ音韻ニ入り立タルキハ。人
ニハ。云バカリモ非レドモ。初學幼童ノ爲メニ。調
子ノ捷徑ヲカツク云バ。先片板ニ一條ノ絃ヲ張
リ。柱ヨリ柱ノ間。糸ノワタリニ尺五寸トシテ。右
ヨリ九寸六分ノ所。又一尺一寸五分ノ所。又一尺
二寸五分ノ所。又一尺五寸七分ノ所。又一尺七寸
ノ所。又一尺八寸八分ノ所。通計七箇所ニ點ヲ附
ケ。管ヲ以テ押シ。カキ鳴ラシ。其音ヲ聽テ緩緊ヲ

知ルベシ。是七絃緊要ノ佳音ナリ。但是ハ和琴ノ
絃音ニテ、管ヲ按セザルヲ一トシ。其ヨリ右ノ方
へ、二三四五六七ト進ムベシ。此七ノ絃ヲ除ケバ、
和琴六絃ノ調子ナリ。爰ニ一條ノ話説アリ。雄略
紀十一年秋七月有從百濟國逃化來者自稱名曰
貴信。又稱貴信、吳國人也。書記集解ニ當宗磐余吳
彈琴。職員令集解雅樂寮有琴師韓琴師蓋天彊手
武之朝撰紀之時、磐余所有吳琴師也。屋形麻呂等是、其後也。トアリ谷川氏ノ通證ニ、吳
琴彈、令雅樂寮伎樂師一人、義解ニ謂吳樂、本朝格
新羅琴師一人、蓋此之類也。○此琴、即西土所用源

氏談、所謂伎牟乃古登是也。和名抄、俗説琴、跡有龍
池、鳳池、龍舌、龍尾、蜂腰、鳳足、弦門、絃納、古人肩等、名
マタ同卷十二年冬十月癸酉朔壬午、云云、欲以琴
聲、使悟於天皇、橫琴彈、曰云云、於是天皇悟琴聲而
赦其罪、ト見エタリ。是本朝ニテ琴ヲ弄ブコトノ、
古キ世ヨリノ業ナルヲ思フベク、又琴ニテ國歌
ヲ歌ヒタル證トスベシ。琴音ノ人心ニ適シ、神ノ
御心ヲ慰メ奉ル、其比類無キヲ思フベシ。源氏ニ
琴ヲ和琴ト並ベテ愛玩シタル、前編已ニ舉タリ。
寄木ノ卷ニハ、琴ノ譜二卷、五葉ノ枝ニツケタル

ヲ、オト、取給テソウシ給フ。ツギニ琴、箏ノ御
 琴、琵琶、和琴ナド。朱雀院ノモノドモナリケリト
 云、コトモ見エタリ、琴ノ七絃ナル由ハ、琴道ノ書
 ドモニ見エタルガ如シ。サテ彼、伎器械ヲ調子ノ
 緒トシテ、琴ニ移シテ撥鳴ラス。是融化適宜ノ琴
 韻ニシテ、緩緊交錯、無量ノ曲節ヲナス。先試ニ世
 間婦女子ノ弄ブ手毬歌トヤトツヲ歌ヒ見ルベシ。
 又岡崎小歌モヨシ。但和琴ニテハ、第七ノ絃無ケ
 レバ、撥搦ヲ以テ求ムベシ。是ニ器大同小異ノ処
 ナリ。下ニ圖ヲ以テ譜ヲ示スベシ。

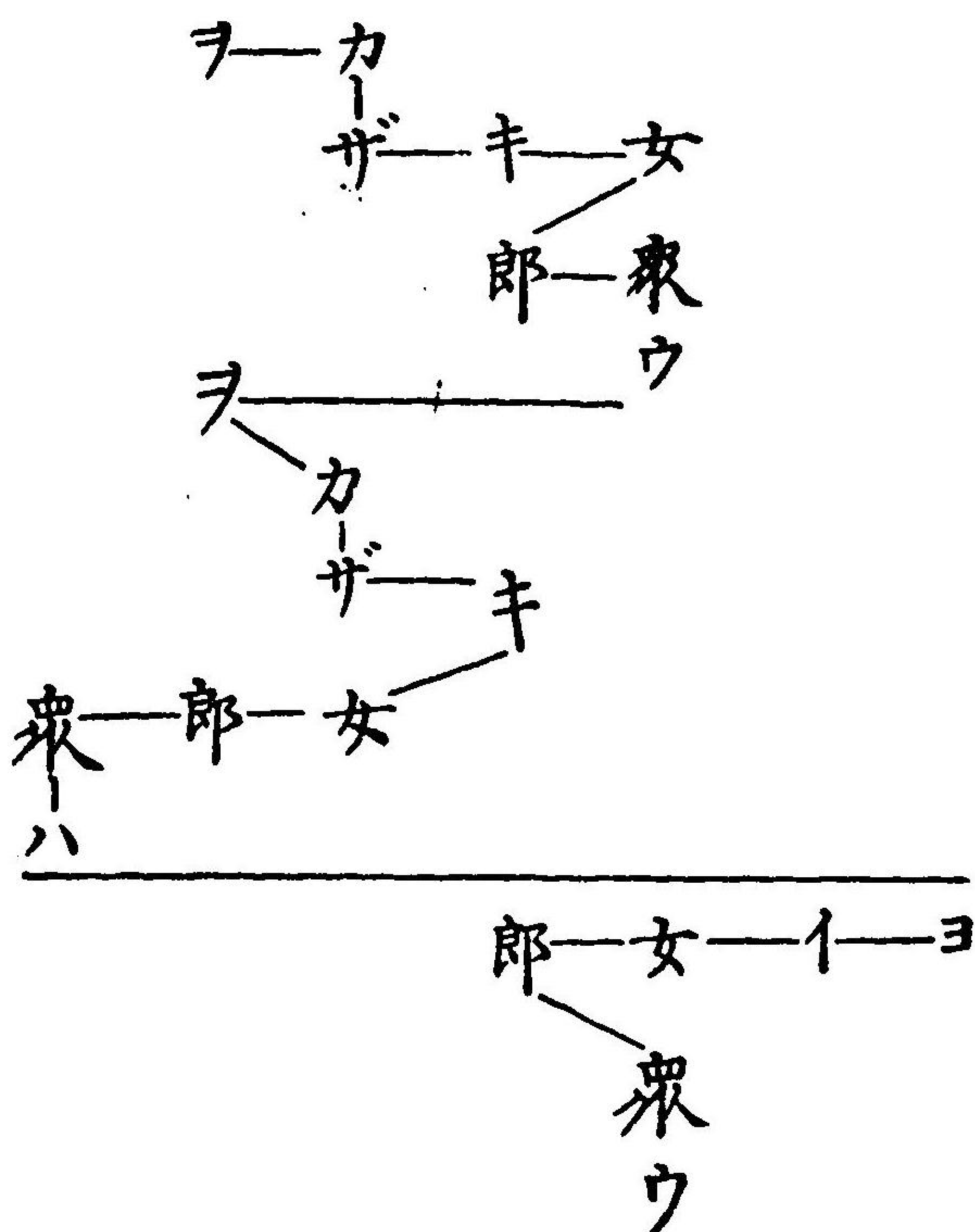
手毬歌譜、第十迄文句自餘數多有リ。



聲音低昂絃聲ノ進退、沉思自得スベシ。

岡崎歌譜

一 二 三 四 五 六 七



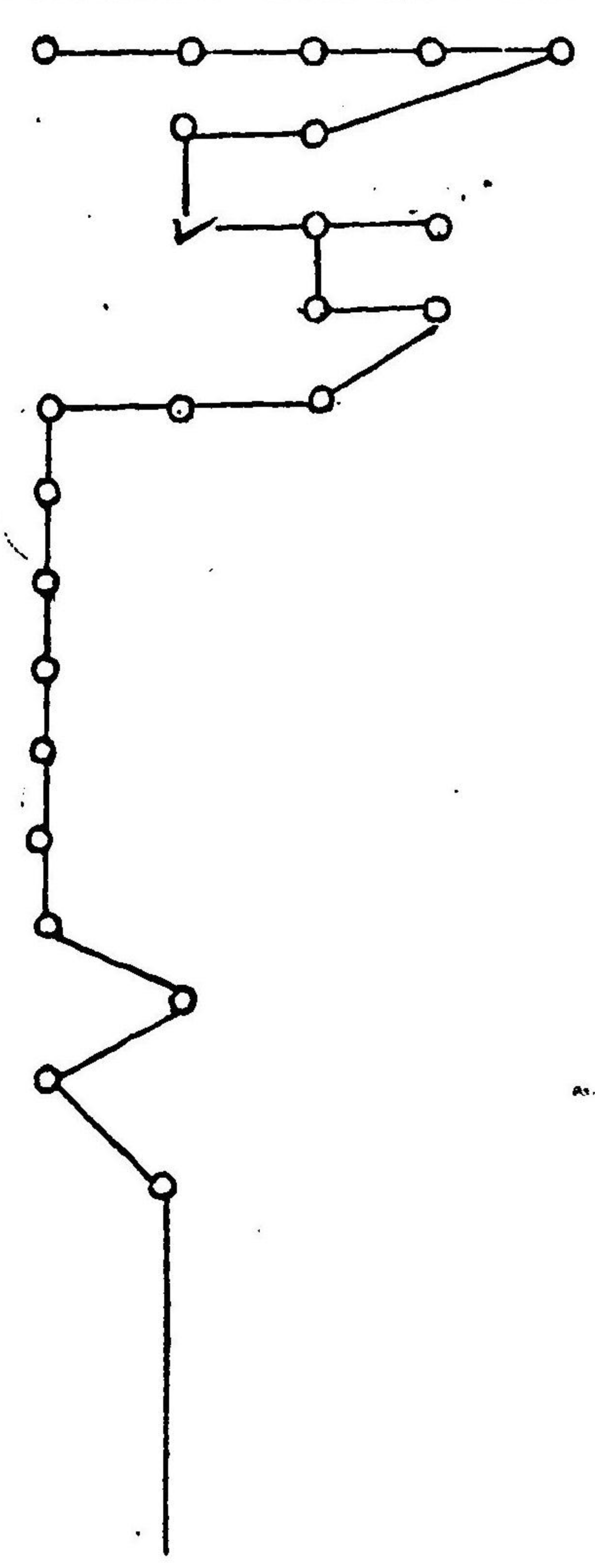
此唱歌ヲ歌ヒ試テ、其上ニ管撥ヲ彈ジ見ルベシ。

管撥ハ神樂歌ノ前、マタ續ケ歌フ間ニモ調ブル曲ナリ。貞觀儀式ニ空擣御琴三聲ト有ル是ナリ。本朝事始ニモ有須賀々幾乃調ト云フコト見エタリ。或説ニ清撥ノ意ナリト云ド、其ハ神樂ヨリ思ヒ依リタル強説ニテ、源氏物語紫若ニアヅマラフガキテト有ルハ、葵上ノ御カタニテノ事、マタ同書上若菜ニ「柏木衛門督ノスガキニシタルト有ルナド、トモニ浄不潔ニ拘ハリタル所ニ非ズ。縣居翁ノ新釋ニスカ、キハ、雙ノ音ヲスカト云ナリ。片撥テフニ對ヘテモシルク、且、雙六ヲスグ

ロクト云、ル例ヲモ思ヘバナナリ。マタ花鳥餘情ニ
 和琴ニ管撥片撥トテ、神樂催馬樂ニ用ル事アリ。
 五拍子ニハスガカキ三度拍子ニハカタガキト
 云リ又箏ニモ每樂曲ノ終ニカクヲ管撥ト云、ト
 云々。マタ谷川氏ノ和訓栞ニ箏ノ譜ニ云ルハ清
 撥ノ義ナルベシ。蕪合香ノ樂ニスガガキノ説ト
 云コトアリト躰源抄ニ見エタリ云々。トアリ此
 人モスガヲ清ノ意ニシタルナリ。愚案ニスガハ
 若直ノ義ニハ有ラザルカ歌ニ合スルナラデ撥
 鳴ラス曲ナレバナナリ。直ニ行ク道ヲスグヂト云、

バナリ、名義ハ何ニモアレ、古キ世ヨリノ曲ト云、
 ハ、然モアルベキナリ、已先年八神殿ノ御神樂ニ
 奉仕シテ、直ニ拜廳シタリ、其、絃聲、

二 三 四 五 六



歌ノ門々、悉此、五音管撥ノ曲ナリ。或人所藏ノ古
寫本不詳者ニ此、琴ハ玄絃ナルヲツゞメテ、一絃ニ
ハシタルナリ。此中ニテ最古キハスガビキノ調
也。ソハ神樂ノ前後ニ必是ヲナラシタリ。云々、神
世ヨリ傳ヒ來レル此調ナレバ、イトモク貴キコ
トニテ、ユメ他ノ技藝ト、ヒトシナニ思フベカ
ラズ。マタ此、琴ハ形ハ神依板ト云ル琴ノ形ナリ、
万葉集九神南備神依板ニスル抄乃云々、ト見エタ
リ。然モ有ラムト覺ユルナリ。サテ此曲ノ五音ナ
ル、古絃器ヲ案ルニ五絃ノ物多シ、琴ハ七絃ナレド

モ、其本ヲ原ルニ琴操ニ伏羲作琴云云、五絃象五
行云云、後文武加二絃、マタ和名抄ニ帝王世説云、
炎帝作五絃琴、世本云、神農作之琴操云、伏羲作之
以具宮商角徵羽、至周文王增二絃云云、マタ河海
抄ニ「琴神農作云云、元五絃宮商角徵羽是也、加文
王武王絃合七絃也」トアリ、阮咸モ和漢三才圖會
ニ見エタルハ五絃ナリ、文獻通考ニ阮咸本四絃
ナリシヲ、唐太宗一絃ヲ加テ、五絃トシタル由アリ、
此器三代實録、類聚國史延喜式、拾事物紀源ニ
但四絃十二柱、或五絃十三柱、マタ北史倭國傳ニ

樂有五絃琴笛、マ夕貝原氏ノ和事始ニ「文獻通考」ニ倭國樂五絃琴アリト記セリ、和琴ノ事ナルベシト云リ、右ノ書籍ヲ歴觀スルニ、古代五絃ノ多キ見ルベシ、此、管撥ノ五絃一曲ナル、古ノ遺レルナルベシ、ユカシキ事ナリ、然ルヲ世間ノ好事者ノ藏ムル一絃琴ハ、數多譜ヲ點ジテ、俚謠ナドニ合セテ、縱ニ曲調ヲ為ス、如何ナル事ナリ、彼琴譜ノ陶淵明ガ所持ノ一絃ノ圖ニモ、十三所譜ヲ點ジタレドモ、其ハ彼所ノ歌ヲウタフ為メナリ、我邦ハ六絃ノ和琴ニテ、歌ヲ曲節ナレバ、六音ノ外

ニ聲ヲ轉スルノ曲、有ルコト無シ、三十一字ノ歌庭燎ナラヌモ、和琴ニテ歌ヲ限リハ、悉、六音ナルコト熟考フベシ、仮令秘傳口訣ノ手ト云トモ、絃無クシテ音韻アルベクモ有ラザルヲヤ、琴ノ七絃此、二器ニテ、今樣風俗野調ノ哇ニ至ルマデ、六音七音ノ古調、交錯シテ曲ヲ為ス、何ノ疑カアラム、サテアヅマハ河海抄ニ「アヅマハ和琴ノ惣名ナレドモ、又東調トテ秘曲アル也、常陸歌ハ風俗ノ秘事、四首ノ其一也、東調ニテ此歌ヲウタフ今ノ世シル人マレ也、云々、トアリ、サテ彼上ニ云、片

板一糸ノ仮器械ハ調子ノ緒ニテ、箏ノ中ノ緒ニ
 等キ物ニテ、源氏紅葉ノ賀ニ、サウノ琴ハ中ノホ
 ミニ契ル中ノヲシラベ、河海抄ニ中ノ緒トハ
 ハコトニカハラガラナム、調子ノ絃也、發ノ緒トモ云也、トアルニ彷彿タル
 物ナリ、斯テ半ニ殊ニ勝レタル佳音アリ、短ニ拘
 ラズ半ノ所ニ此音此絃音ヲ五ニ當テ、是ヨリ高
 アルハ妙ト云ベシ、此絃音ヲ五ニ當テ、是ヨリ高
 クモノナリ、低クモノナル、實ニ中ノ音ナルモノナリ、
 サテ又短笛後切ノ一ト云器アリ、表四孔裏一孔、筒
 音トモニ六聲、是ヲ此六音ニ配當スルトキハ、音
 韻相適フ又竒ト云ベシ、古ノ長歌紀、續、躰、莫、等、陞、鳴

磨バ、苜、等、你、都、俱、利、須、衛、陞、鳴、磨、府、曳、你、都、俱、利、云、云、
 トアルヲ思ヘバ、後世ノ細キ製ノ笛ニハ非ザル
 ベク、必、彼、短、笛、ノ、如、キ、形、状、ナ、ル、ベ、キ、ナ、リ、今、世、ニ
 弄、ブ、尺、八、ハ、イ、ト、後、世、ノ、器、ニ、テ、糸、竹、初、心、集、ニ、上
 畧、虚、無、僧、尺、八、ト、云、ハ、長、尺、八、寸、ニ、切、ル、ユ、エ、尺、八
 ト云トゾ、濫觴ハタシカニ不知云々、斎、藤、氏、ノ、隨
 雁ガ音文七ト云シ、狭、客、ア、リ、自、然、ト、尺、八、ノ、難、波、ニ
 ニテ、世ニメテラレシ、エ、ニ、手、下、ノ、狭、客、ド、モ、悉
 學ベリ、後ニハ吹コトハサシ置テ、イ、サ、カ、ヒ、ノ、為
 人、便、利、ニ、セ、ン、ト、ハ、一、尺、ハ、一、寸、ニ、シ、テ、ハ、リ、ト、ス、云
 ニシテ、竹ノ根ギハ、一、尺、ハ、一、寸、ニ、シ、テ、ハ、リ、ト、ス、云
 云、古ノ短笛一名一尺切、一、尺、ハ、一、寸、ニ、シ、テ、ハ、リ、ト、ス、云
 八寸ノ短笛、一、尺、ハ、一、寸、ニ、シ、テ、ハ、リ、ト、ス、云
 八ハ、樂、器、ニ、ア、ラ、ズ、尺、ト、見、エ、タ、リ、源、氏、未、摘、大、ヒ

チリキ、サクハチノフエナドノ、大コエヲ吹アゲ
ツ、云々ト見エタリ。古キ物ナレド、同名異製ニ
テ、古今ノ別アリ。和漢三才圖會ニ「按一節切似尺
八而短、其長一尺八分、止一節、故名之。近世之製與
尺八同類異音、遊真之具、其音嫻々不絶如縷、以為
謠歌之語與三絃相比。マタ執苑日涉尺八ニ、條源
鈔ヲ引テ、尺八之制凡六。曰黃鐘切、曰盤涉切、曰壹
越切、曰双調切、曰平調切、曰新黃鐘切、切者國語云
調律裁管、盖管之長短、依律損益、最短者為壹越切、
俗讀云非長曲尺一尺一寸、最長者為平調切、長曲
都越幾黎

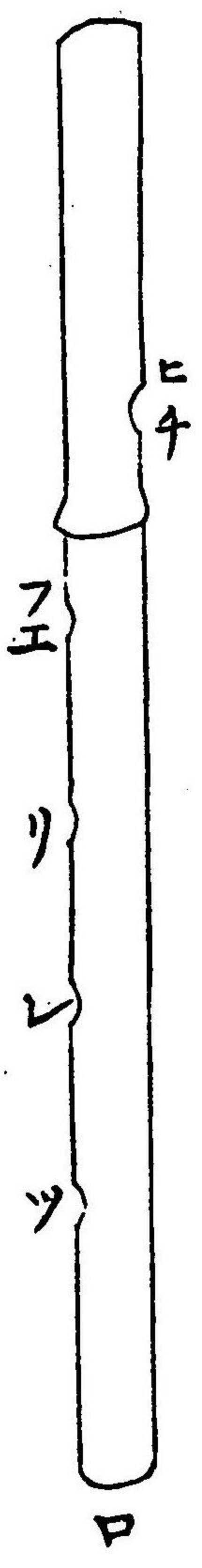
尺一尺四寸、近世所傳唯壹越切、之一管耳。余幼時
猶有善此管者、今之尺八、笛盛行而、壹越切遂廢、云
云是ニテ一節切ハ、後ノ尺八ト別種ナルコト能
ク聞エタリ。然レバ源氏物語ノ尺八ノ笛、イヨク
短笛ト決定スベシ。糸竹初心集ニ「一節切尺八切
ヤウノ事、節ヲ一ッコノ長一尺八分ニキルエ、此
名ヲ付トイフ、節ヨリ下ハ七寸、上ハ三寸八分ニ
キル也。但竹ノフトサホノサニヨリテ、調子違フ
モノナレハ、極テ寸ハ定ラズ、筒音ヲ黃鐘ノ調子
ニ合セタルモノナリ。」下畧マタ河海抄ニ「詠尺八

遊仙窟 長一尺八寸、古四寸八分、律書圖云又云尺
八為短笛、云云マタ羅山文集、餘音尺八、記ニ我邦
尺八形制者、擇奇生之竹、挑截本末、規摹獲短、間一
節上短下長、總硲其中、虛如解谷、而無底四孔在面、
一孔在背、炳表點髹、腕裏順摸、大於笛稍短、而豎吹
之焉、ト見エタリ、彼此參考スルニ、上ニ舉ル所ノ
繼躰、天皇ノ卷ノ歌ニ見エタル琴ヲ製リタル竹
ノ末ベニテ造リタルハ、必此短笛ヤウノ形制ニ
コソハ有ツラメト、推量ラル、ナリ、横笛ハ久シ
ク樂器ニ用ヒタレバ、此器ナラデハトオボユル

人モ有ナメド、延喜雅樂式ニ、凡諸樂橫笛師等、不
解和笛不得任用、トアリテ彼、五孔筒音トモノ笛
即琴ノ末竹ニテ造リタルナレバ、和笛ト云テ差
ハザルナリ、然レバ和琴ニ合スル適宜ノ器ニテ
其名称モ、短笛ハ短キヨリ云、尺八ハ長ノ量度ヨ
リ云、一節切ハ形状ヨリ云、ナレバ、和笛ト云ゾ、善
キ名ナルベキナリ、斯テ和琴ニ合スルニハ、彼片
板上ニ標シヲツケ、筒音ヲ一トシテ、次第ニ一二三
四五六ト、笛譜ヲ記賦シ、記臆ノ扶トシテ常ニ此
撥合セテ暗記セム事ヲ心懸クヘキナリ、サテ其

笛製作ノ寸法ハ、或人ノ所藏ナル、指田一名此、技流ノ傳書ト云、物ニ、一尺八分有、物ヲ、黄鐘切ト称ス、傳ニ曰一節切ノ寸、竹ノ太細ニ依リテ、長短有リ、定法一尺八分ニ、節ノ上ヲ三寸八分ニシテ、節ノ下ヲ七寸ト定ム、又一尺ニ切物ヲ盤涉切ト云、シカレドモ黄鐘トモニ、其調子不備ハ号ルニ足ラス、師傳曰、盤涉切ヲ用ル事、廣原ノ地、或ハ舟中風アラク吹、時、用キテ可ナリ、又小唄ヲ吹クニ用、壹越切、平調切、双調切ノ品アリ、シカレドモ黄鐘切ヲツネニ用テ五調子ヲ吹ク、蓋シ手事ヲ吹ク

モテ本意トシテ、小唄ヲフクコトヲ可トスベカラス、云々、抑一節切ノ音ハ音色、簫ノ如ク指ツカヒ、算篋ニ似テ歌口ノシメ、様ハ横笛ニ同シ、云々、



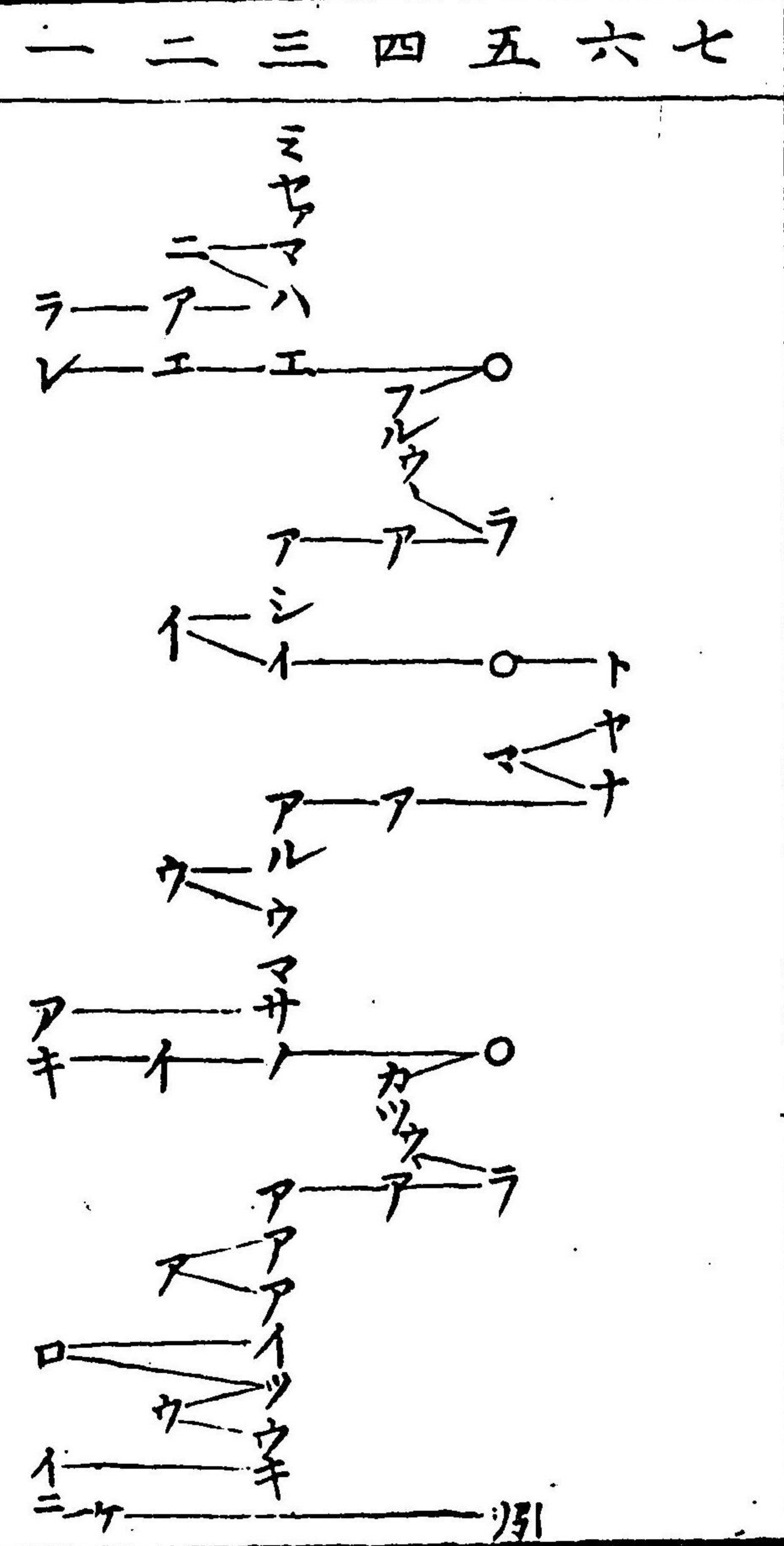
此、笛ノ譜、彼傳書ニ古曲ノ譜ヲ廢シテ作りタル簡ニシテ足レリ、下ニ擧グベシ

指法

六孔皆塞キタルヲ筒音ト云テロナリ、一孔ヲ明ケテツ、一二ヲ明ケテレ、一二三ヲ明ケテリ、一二

三四ヲ明ケテ工、皆明ケテナリ、琴孔一ツ明ケテヒ以上
 音此、外ニ又四ヲ一明ケテフ、二三ヲ明ケテハ、一
 三ヲ明ケテリ、通計十音、其中末ノ三音ヲ除キテ
 七音ナリ、但、皆閉ヨリ皆閉マデ六音、是清亮佳美
 ノ音ニテ、コレヲ以テ神樂歌ニ合スル、其、愛タク
 貴キヲ思フベシ、彼、傳書ニハ圖ヲ以テ示シタレ
 ドモ、圖ノ無キガ及テ覺エヨキナリ、管撥神樂歌
 何レモ五音六音ノ正音ナリ、今様歌ハ管撥モ歌
 モ七音ナリ、案、ニ神樂歌ハ和琴ニ宜シク、今様雜
 謡ハ琴ノ七音ニ宜シキ、自然ノ曲調ナルニヤ、和

歌ノ謠、法音聲ノ低昂、圖ニ因テ歌ヒ試ムベシ。



神樂歌ハ、國々ノ大社ナドニハ、サマトノ古実ア

リテ、謠法モ儀式モ一定セズ、其家々ニモ秘訣ナ
ド有リト聞ケバ、憚リモ有リ。カタク容易ニハ云、
難キ事ナレバ、此譜モウケバリテ圖シ難ケレド、
少時ヨリ往々人ノ歌ヲ聞タル、耳ノ底ナルヲ
取出タリ、彼、八神殿ノ御祭典ニ奉仕シテ、常
ニ耳馴タレド、管撥ナドハ此譜ノ如ク、サダカナ
ルヤウナレド、始終リ體ニ心ニ記スバカリハ有
ラザリキ、此道ニ長ケタル人ニ、具ニ問ヒ明ラメ
マホシキナリ、サテ又本居氏ノ説ニ、神樂ハ古ハ
神アソビトゾ云ル、然レバ其歌ヲモ古今集ニハ

カミアソビノ歌トゾシルサレタル、神樂ト書ル
モ古クハ「カミアソビ」トゾ訓ベキ、カグラト云名
ハ、イカナルヨシニテ、イツノホドヨリカ云、ソメ
ケム、六帖ノ題ニハ、カグラト書リ、先輩云、ク、神ヲ
カグト云ハ訓ノ轉、樂ヲラト云、ハラクノ略音ニ
テ、所謂湯桶ヨミナリ、下學集ニ「湯桶文章可笑ト
見エテ古代ニ無キ事ナリ、然レド土佐日記ニ、此
様節忌和名抄ニ「檜楚源氏物語枕冊子ニ懸盤、榮
花物語ニ樂屋、續世継ニ五先、東鏡ニ戸帳、拾玉集
ニ今様歌、盛衰記ニ骨柄、催馬樂ニ千鞋」ナド有レ

一
卷二
一
正シキ熟字ニハ非レドモ、今ハ一格ノ如クニ
テ、強テモ論ヒ難キナリ。斯テ神樂ノ起リハ、古事
記、日本紀、古語拾遺ノ神代、窟戸ノ段ヲ参考シテ
知ルベシ、古語拾遺ニハ、歌舞ノ字アリ。記紀ニ無
キハ洩レタルニヤ、鄙曲相承次第ニ神樂、雖為諸神、
製作傳于世、以舞人多自然麻呂為根元、其後次第
上下翫之、彼親王殊、携此道子信雅公時中卿以下
皆名譽堪歎也、云云、サテ神樂歌ヲ採物ニ添ヘナ
ドシテ歌フハ、何時ヨリノ事ナラム、歌ノサマ奈
良ノ末ヨリ平安城ノハジメバカリヲ古シトシ

テ、其後ニ餘典ノ曲ドモ、ツギク多クナリ又ルナ
ルベシ、サテ神樂ノセムハ、何ニモ潔ク、樂シキワ
ガシテ、神ノ御心ヲ和メ奉ルナリ、或樂家記録曰、
神樂催馬樂曲、之事家傳云、淡海三船撰之多氏へ
相傳フ右近將監多、自然麻呂、神樂催馬樂ノ祖也
故、神樂ノ時、多、氏今ニ神ヲ取テ、人長ヲツトム云
云、マタ、郢曲秘鈔風俗裏書ニ、催馬樂、本路頭巷里
之謠詩也、然而後好事之士、女、取以為彈琴歌曲、故
其歌因來、甚有古代、有中世、厥后更奉諸國、謂之風
俗、又後代謠詩、謂之今樣、催馬樂風俗、固是一也、遂

翫於宮中已久矣。ト有ル然ルコトナル可シ。彼淡
御船撰トアルモ、只ソノカミノ街衢ノ謳歌ヲア
ツメテ、多、氏ニアタヘテ、節ヲ付サセシヲ云ニテ。
新ニ作レリト云、ニハアラザル也。巷陌ノ謠歌ナ
深ノ意味アル事ト思フ。催馬樂ハ句數モ定ラズ。
ハ、真面目ニ非ザルナリ。催馬樂ハ句數モ定ラズ。
謠法ニ家々ノ秘事ナド有リテ、容易ニ窺ヒ知ル
ベカザレバ、只、大擧ヲ云リ、庭燎採物ノ歌ハ、句數
字數尋常ノ歌ノ如クナレバ、糸竹一曲ニテ、幾首
モ歌ハル、ナレバ、此書ニハ先、庭燎採物ノ歌ヲ
舉ゲムトス。抑、庭燎ハ鈔ニ、庭燎ノ事、禮記ニ載、夕

リ、又毛詩ノ篇名ニモ有リ一本ノ書入ニ庭燎ノ
明火トモシ火ノ事ニシテ、此ノ庭火、火處燒是ハ
トハ趣意異ナレド、夕其、字面ヲトレル也ハ
何ノ為ゾト云ムニ、古キ神態ナレバ知ルベカラ
ズ。先輩ノ考ヘモアレド、定カナラズ。採物歌縣翁
云ク、神遊ノ時人長ガ取テ舞ナドスル物ヲ云、則
其物ゴトニ、古歌ヲウタフ也。云々、今按ニ天治本
云、取物九種、神幣、杖、篠、弓、劔、鉾、杓、葛但不各雄拍子
鳩、拍子十次、鞞拍子廿次、御遊了天酒司度、杯給
則了、次、笛、箏、篋、琴等隨召、次第仕天各本座着久、次
御遊其間和舞可仕男表召互舞仕留、則了間尔於

佐戸天人長申云、是男二度和舞上以告依奉仕多留
亦司位令祿表給、次前張トアリ、是ニテ神樂ノ凡
ヲ知ルベシ、抹物ハ八種ナルヲ葛ヲ二物トセシ
嘉積本ニ葛音ヨリノ誤ナリ、天沼本ニ葛船ト云
トアルヲ思ヒ合スベシ、○或説トハ、時ニヨリテ
歌フコトノ有ル歌ナリ、○本末トハ故事要略ニ
本末トハ喩ヘバ、内侍所ノ御神樂等ニ、人長舞之
時、左右ニ列座シテ拍子ヲトル、左ノ歌ヲ本トイ
ヒ、右ノ歌ヲ末歌ト云、マ夕神樂要録四ニ「左座右
座ニ因テ等シカラズ、云々、神樂ニモ左ヲ本トシ、
右ヲ末トストアリ、此外諸抄ニ説見エズ、○片折

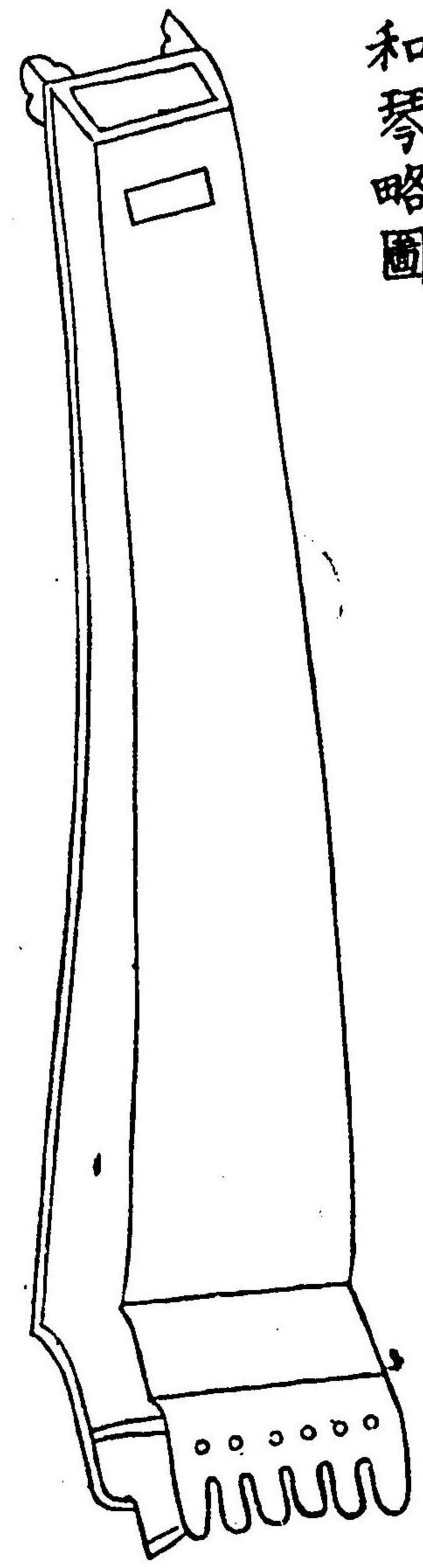
ハ樂ノ左右ノ上下ヲ云ナリ、次ノ諸舉ノ下ニ云
ベシ、○諸舉ハ本末諸ニ上テウタフヲ云、譬バ今
世ニ琴三絃ナド云、物ヲ合スルニ、上下ノ調子モ
テ合スル事アルガ如シ、又其中ニ末片折ト云ハ
歌ノ上句ヲ、左右同シ聲ニウタヒテ、下句ヲ右方
ニテ下ス也、又末諸舉ト云、ハ下句ヲ右方ニテ上
ルナリ、又末籠片折トアルハ、タトヘバ「セガキヤ
セガキト上ル聲シテウタヘバ、又「セガキノ水ヲ
ト下ル聲シテ歌ヒテ、互ニ上聲ヲ以テ下聲ヲ籠
下聲ヲ以テ上聲ヲコムル云也、是則今世ノ謠曲

ニ、打合セトイフ節ノ状ニゾアル、彼寂蓮ノ歌ニ
サヨ深キキブネノ奥ノ松風ニキネガ鼓ノカタ
オロシナル、トヨミタルモ、琴ノ音ハ松風ト諸舉
ノ如ク相合ル中ニ、ヒトリ鼓ノ音ノ、松風ニハナ
レテ聞ユルヲ、片オロシトハ云ナセルニコソ、考
モ記傳モ、共ニ穩ナラス、サテ熟考ルニ、信濃國或
村々ノ神事ニ歌フ歌、マタ肥後國諸社ノ神樂歌
マタ春日ノ若宮社ノ神樂舞ノ歌、マタ氣比宮神
社ノ用盤涉調、マタ上代ハ神樂ハ無調也、而近來
スベテ用壹越調為之、マタ神樂ハ本ハ平調也、ナ

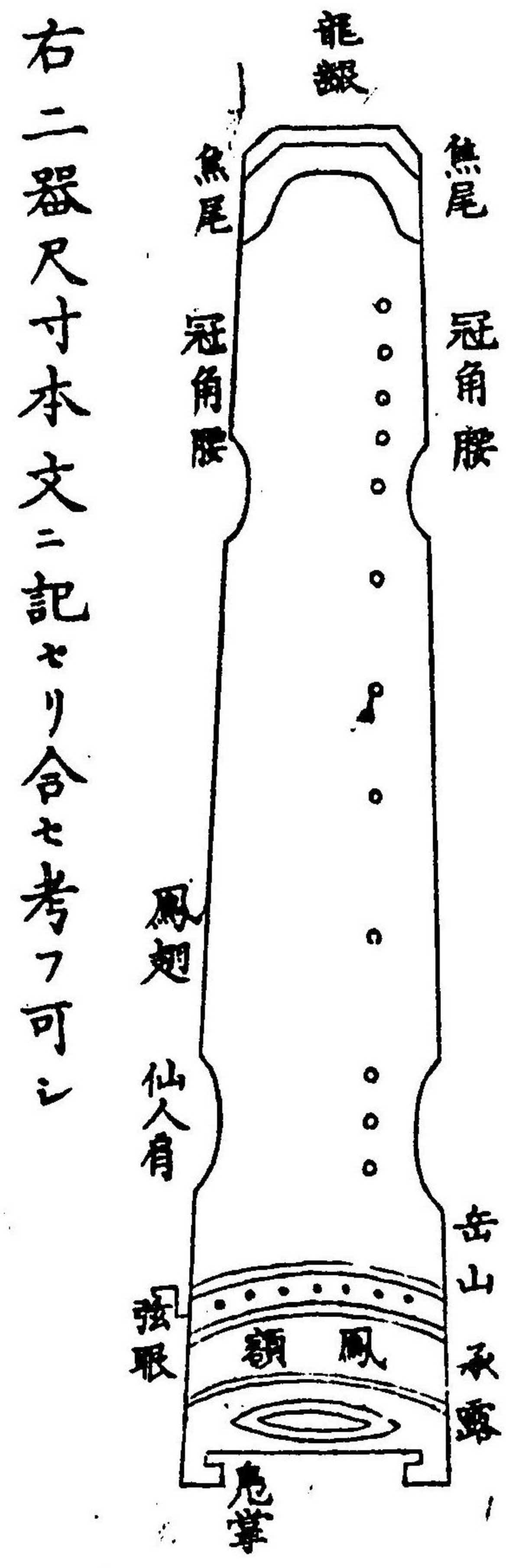
ドトカクニ漂ハシゲニテ、神樂催馬樂モ本ニ依
リテ、節付ノ同シカラザルナド、何ナル事ナラム、
上ニモ云、如ク其家ニ徒ヒ、其道ノ人ニ就テ學バ
ザレバ、為シ得難キ業ナレバ、先上ニ圖スル所ノ、
已ガ少壯ノ比ヨリ耳馴タル、謠詠ヲ以テ聲韻ノ
低昂ヲ考ヘ、適宜ノ調ヲ覓ムベキナリ、凡テ一定セ
ザル事ハ右ニ善キハ左ニ惡シク、此ニ密ナルハ
彼ニ疏ニシテ、何ニカ依リ果シ、只世ニ廣ク人ノ
モテハヤス所ヲ、暫目的トシテ有ムコソ、公平ナ
ルベケレ、况陋巷ノ神社ナドニテハ、美盡シ善ヲ

盡甘山事ハ、求ムトモ得ベカラズ、唯簡便ヲ主ト
 シテ、一片ノ板ニ、一條ノ絃ヲ張リ、一節ノ竹ニ五
 孔ヲ穿テ、古代六絃ノ曲調ヲ、此器ニ移シテ歌ハ
 ム、是、穩妥ノ神遊ナルモノナリ、或人ノモタル神
 樂坐位圖ニ、人少ク略ノ時ハ、神樂歌ヲ謠ヒテ琴
 ヲ彈ク、即、神樂トナルナリト、然モ有ルベシ、

和琴略圖



琴



右二器尺寸本文ニ記セリ合セ考フ可シ

一續考二編終

明治十一年二月十八日版權免許

埼玉縣平民

推大講義

著者

井上淑蔭



第五大區入間郡石井村
二十四番地

同縣平民

出版人

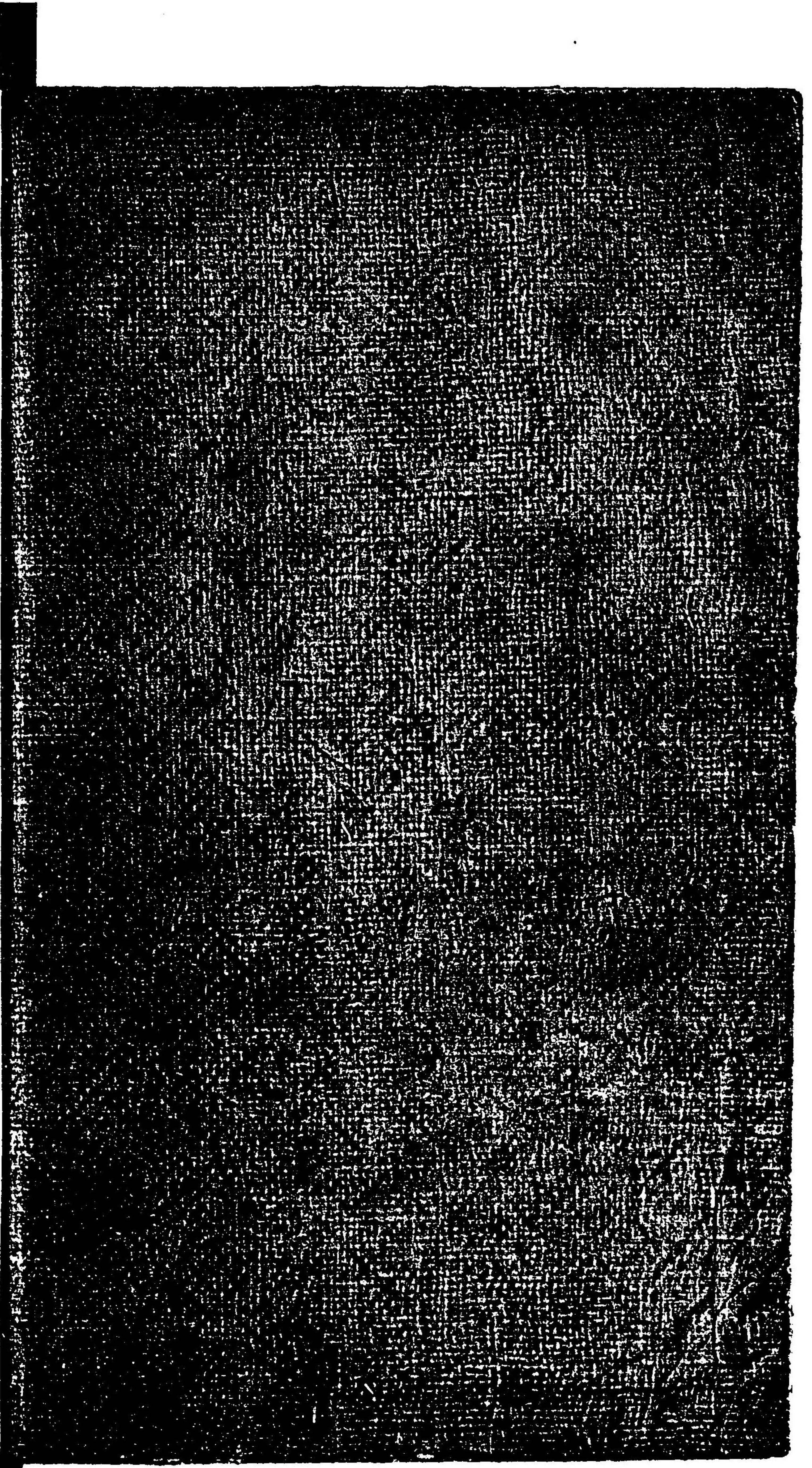
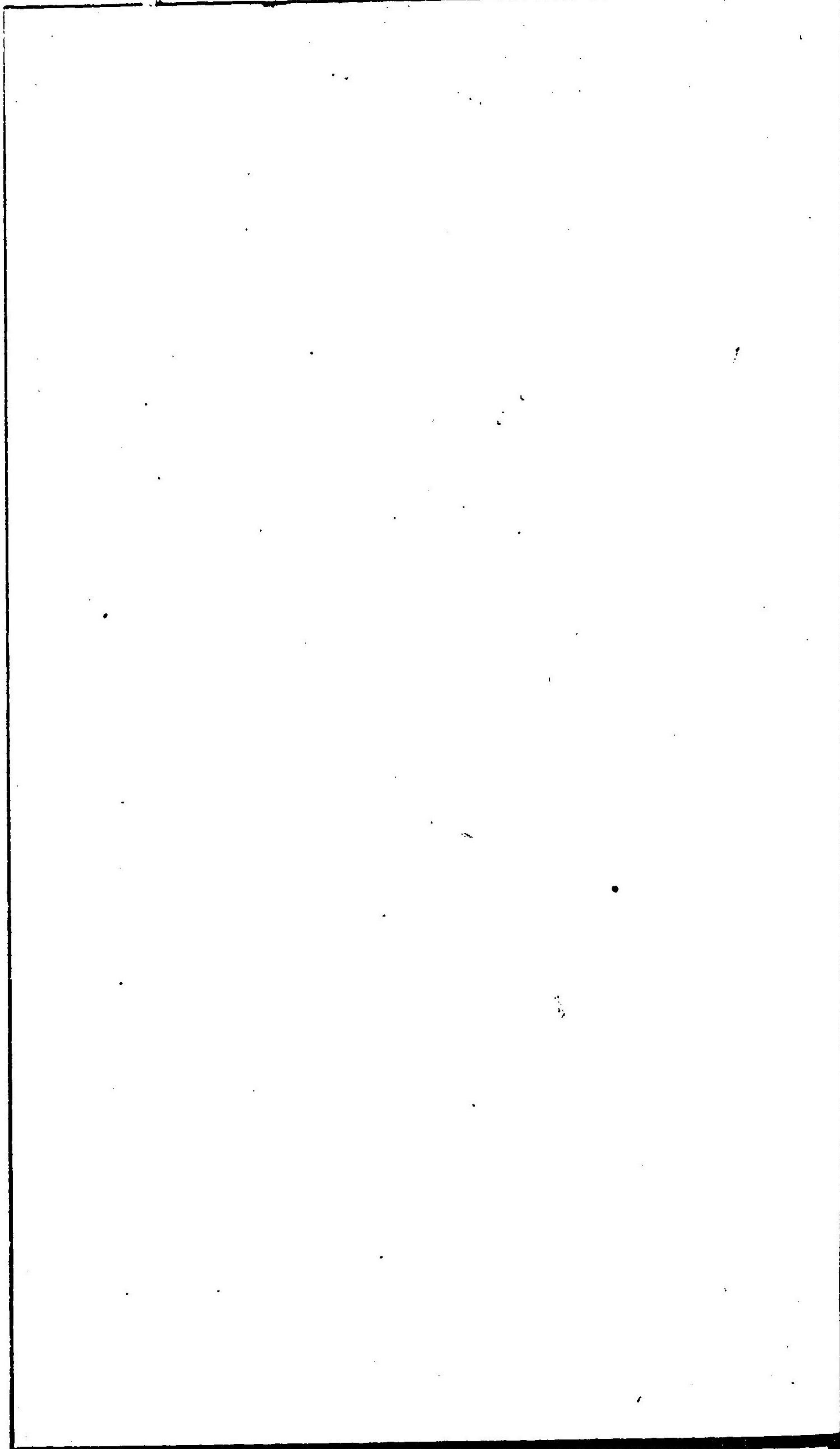
蜷川國造

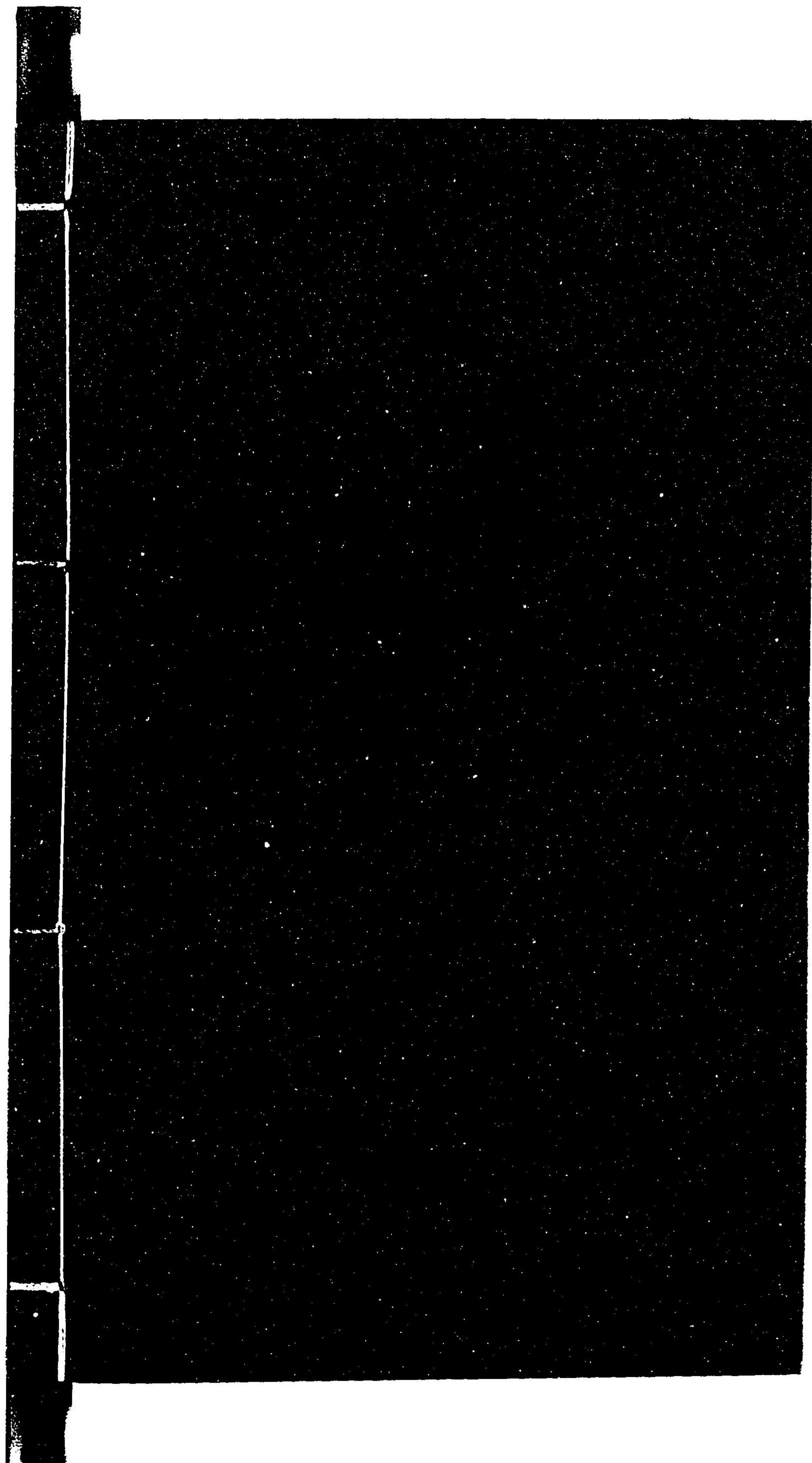
第五大區二區川越志儀町
七十二番地

本銀町二丁目

東京書林

山中孝之助發兌





8
105

一
金
一
南